
キューピッドちゃんのおへそ

くうーたんたん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

キューピッドちゃんのおへそ

【Nコード】

N5427M

【作者名】

くうーたんたん

【あらすじ】

神様からの罰を受け、天界から落とされたキューピッドがなぜか宗谷のへそに繋がってしまった！
ロマンチック学園コメディーです。

神の愛人？

宗谷は自分のブレザーを脱ぐと、キューピッドに着せてやった。

「ちよつとここで待ってるよ！動くんじゃないぞ」

まだ授業中なので廊下には誰もいない。

自分のロッカーを開けて体操着を取り出すと、急いでトイレに戻った。

「誰も来なかったか？」

「うん！誰も来てないよ」

「よし、じゃあこれに着替えろ」

キューピッドはブカブカの体操着をたくし上げた。

「そついやまだ名前聞いてなかったね」

「俺か？松崎宗谷だ。お前は？」

「この世界の名前は無いからソーヤがつけてよ」

「ええっ？そうだな…名前が無いのも不便だな。キューピッドと
いやあ縁結びの神様だろ？神乃愛人と書いてカミノ・アイトでど
うだ？我ながらシャレがきいてるぜ！」

「ええっ？そのどこがシャレてるんだよ！ソーヤセンス無さすぎ…でもまあアイトって響きは気にいったから妥協するかな。しかし、神様の愛人ってマジヤバくないか？」

「なにをブツブツ言ってるんだ、さあ行くぞ！」

「行くってどこへ？」

「とりあえずウチに來い、それからどうするか考えよう」

宗谷はアイトを後ろに隠し、教室のドアを半分だけ開けると苦しそうな顔で先生に訴えた。

「先生…ちょっと腹下しちゃって。スミマセン早退させてください…」

「ずいぶん帰って来ないと思ったら…まあ仕方ないな、気をつけて帰れよ！」

「ハイ、スミマセン」

宗谷はそそくさとドアを閉めるとアイトを連れて、こっそり裏門から学校を出た。

アイトは大病で歩く宗谷の後をチョコマカと一生懸命ついてきていた。

「なあ、お前へまやっただって言ってたけど一体何をやってんだ？天界を追い出されるなんてよっぽどだろう？」

「う…うん。それがさ、ちょっと弓矢がそれちゃって違う人に当たっちゃったんだよね」

「弓矢って…あれか、例の当たると恋に落ちるっていうあの?」

「そうそう…」

「それで?誰に当てたわけ?」

アイトはモジモジしながらそつと自分を指差した。

「え…まさか…自分?」

アイトは真っ赤になってうつ向いている。

「ウソだろう?どうやってたら自分に刺さるかねえ」

「だって…仕方ないんだよあの場合さ、近くの壁にかすって跳ね返ってきたやつたんだもん…間違いは誰にでもあるのにさ。ちよつと酷いよね!」

宗谷は呆れた顔で小さくなっているアイトを眺めた。

「いやあ…お前仮にもキューピッドだろ?そりゃあ無いわ!神様が怒っても当然でしょ」

「そんなこと言ってたつてさ。結構難しいんだぜ弓矢って」

シヨンボリ肩を落としているアイトに宗谷は仕方なく「どれ…その弓矢とやらを見せてみるよ」と声をかけた。

「えっ?宗谷、弓を引けるの?」

「ああ…見てみないと分からんけどな。こつ見えても一応弓道部の主将なんだぞ!」

「そうなんだ、凄いな〜！」

アイトは腕捲りすると、肩のところにあるハート型のアザをポチッと押して手を前に差し出した。
すると、その手に金色の弓矢がフツと現れたではないか。

「ハイ、これだよ！」

宗谷はまるでホログラムのように浮かび上がった不思議な弓を受けとると、透き通った糸を引っ張ってみた。

「ん？全然動かんぞ！」

「あっそうだった！これはキューピッドしか引けないんだよ」

宗谷はがっかりした顔で弓をアイトに返した。

「そうだよな、誰にでも引けたんじゃそれこそ俺は心配になるぜ。
でもさ、お前人間が使う弓は引けるだろ？だったらウチの学校の弓道部に入れば？」

アイトの目は喜びでキラキラと輝いた。

「いいの？」

「いいも何も…こう繋がれてちゃ身動きならんよ。しかしこの糸は一体どこまで伸びるんだ？」

アイトは小首をかしげ「試してみないと分かんないね。ちょっとやってみようよ！」

そう言うなりアイトは走り出した。

宗谷はその姿をずっと見ていたが一つ先の信号を渡ったあたりで急激に体が引つ張られるのを感じた。

「ワ…ワ…ワアアア！」

宗谷の体はまるでゴムに引つ張られるように物凄い勢いでアイトの方へと引き寄せられていった。

「ウワツ、ソーヤ！ぶつかるよ！」

信号が青だから良かったものの、糸の反動で飛び込んできたソーヤの大きな体は小さなアイトの体を巻き込んで数メートル先まで転がっていつてしまった。

「ハア…ハア…大丈夫かアイト！」

すっかりのびてしまったアイトのほつぺたを宗谷は軽く叩いた。

「ん…ソーヤ、なんとか大丈夫。この感じだとあんまり離れない方が無難だね」

「ああそうだな…せいぜい20メートルってところか」

「うん、それくらいかも？」

宗谷はアイトの埃を払ってやっていたが、胸が妙に膨らんでいるのに気が付いてビクッとその手を止めた。

「お前…胸、胸が…」

アイトは襟から中身を覗きこんだ。

「あっ！さっきの刺激で女の子の体になっちゃったみたい」

「なっちゃったみたいって…え？どうなってるんだ？」

「もう！さっき言ったじゃない。子供の時の性別は安定してないんだってば。こんなのしょっちゅうだから気にしないでよね」

「気にするなったって…そりゃ気にするよ」

宗谷は火照った顔を手で扇ぎながら「こりゃあ前途多難だな…」と天を仰ぎ見た。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5427m/>

キューピッドちゃんのおへそ

2011年9月10日23時29分発行